

## 講義要旨

テーマ：世界自動車生産市場の展望／主要生産市場の短期変動リスクと電動化を軸とした合従連衡

講師：IHS Markit Manager 西本真敏 氏

纏め スギムラ化学工業(株) 堀田

非常に多くの貴重な調査情報を基に、自動車生産における世界の主要生産市場の動向と、電気化を中心に自動車製造産業の今後についてご講演頂いた。

### ○ 主要生産市場の短期変動リスク：

- ・世界マクロ経済の動向とリスクで、特に注目ポイントとなるのは以下の3点。  
保護主義政策による世界貿易量の低迷が世界の生産活動の停滞を招き、更に短期的な在庫調整がその状況を更に悪化させている。  
各国の金融緩和や財政拡大は、その政策効果は小さく、自動車市場が急激に回復するとは想定できない。  
世界経済に影響を与えるリスクに米中貿易摩擦の悪化、中東戦争の勃発、合意なき Brexit がある。
- ・世界自動車生産市場は漸く底打ちの状態を迎えたが、2020年悲観シナリオのリスクは払拭できない。
- ・中国：漸く底打ちの兆し、緩やかに慎重な回復へ。Geelyは電動化と高級化、日本メーカーはセダンに活路。
- ・北米：米国は1,110万台を回復、メキシコは400万台でピークアウト。Toyota以外の成長戦略は崩壊。
- ・EU：Brexitや米国通商拡大法232条など不安定リスクが残る。PSAはOpel買収効果を享受、VWがBEVで勝負を賭ける。
- ・日本：2019年10月消費税増税後、転換期を迎える。HondaとToyotaは成長、Mazdaは大きく後退。
- ・インド：新車需要喚起策により2020年から緩やかに回復。Hyundai以外は協業や事業再編成を加速。
- ・ASEAN：国民ブランドと電動化政策が回復の鍵。国民ブランドや電動化による協業や事業再編が進む。

### ○ 電動化を軸とした合従連衡：

- ・2025年ZEV(BEV+FCEV)率9%、内燃機関は91%残る。
- ・規制主導で中国、EU、米国10州のBEV普及は進む。
- ・世界ZEV市場はVolkswagenとFordが主導する。
- ・2025年ZEVを中心に合従連衡が加速、Mega3が形成される。  
Mega3：Toyota、Volkswagen、Renault-Nissan-Mitsubishi

### ○ まとめ：

主要生産市場の短期変動リスクと電動化を軸とした合従連衡

- 1.世界実質GDPは2020年に向けて2.5%へ縮小する。主要なリスク要因は、米中貿易摩擦、中東の地政学的リスク、Brexitがある。各国政府は景気刺激策として、金融緩和や財政拡大を進めるが、主要国での低金利や財政赤字を考慮すると、それらの政策効果は小さく、自動車市場が急激に回復するとは想定できない。
- 2.世界自動車生産市場のトレンドは、2019年第2四半期に底打ちし、現在ゆっくりと慎重に回復に向かっている可能性が高い。2019年通年の世界自動車生産は前年比5.8%減となる見込みだが、2020年は少なくとも横這い、または微増すると予測する。一方で米中貿易摩擦やBrexitの不透明性を考慮すると、2020年に

底割れのリスクもある。

3.2025年 BEV は世界シェア 9%に達するが、短期的には中国、EU、米国の規制動向が BEV 成長トレンドの決定要因となり、BEV 潜在需要は未だ不透明な状況である。Volkswagen と Ford 連合が ZEV 市場のリーダーとなる。一方で Toyota は中国の電動化オープンソース戦略が実質的な規模拡大に結び付くのか見定める必要がある。

- 以上 -